

安倍元首相の国葬の裏側に潜むもの

岸田首相の度し難い無法ぶり

9月1日の日本経済新聞の一面に「首相、支持低下が迫った対応 旧統一教会と“関係断つ”」という見出しの記事が載っていました。岸田首相が「自民党所属議員との関係を巡り国民の不信を招いた」ことについて「国民に深謝する」とのことです。しかし、自民党所属議員がおかした不祥事なのに、立法府の中の1政党である自民党の“総裁”ならぬ行政府の長である“総理”が国民に陳謝するというのはヘンテコだと思いませんか。更に岸田首相は一目散に安倍元首相の国葬を実施しようとしていますね。閣議決定に基づくものですが、閣僚というのは自民党の諸派閥の代表者の集団みたいなものでしょ。だから、閣議といったって、言ってみれば自民党の意見を集約しただけのもの。これだけで国家の行事の実施を決定してしまうのですから、ヘンテコどころじゃなくて度し難い無法ぶりだと思えます。「吾輩は国民から選ばれた日本国の元首である」なんて思いこんでいるのかな。

「おバカさん」揃いの二世三世議員

岸田文雄首相も安倍晋三元首相も国会議員の座を“世襲”の形で引き継いできている二世三世議員の仲間です。祖父や父親が築いたジバン(有力者の支援を得やすい地盤)、カンバン(知名度を表す看板)、カバン(選挙資金こと鞆)のいわゆる「3バン」を引き継いで国会議員の地位を保ち続けてきているだけに、カバンのもととなる支援金を地元の有力者から得る代わりに中央官公庁から権益を得てそれを地元に戻元することは得意ですが、こと行政能力としては「おバカさん」としか言いようのない“先生”が多いようです。小泉純一郎元首相も二世三世議員の仲間ですが、そのご子息の小泉進次郎くんが環境相として、ニューヨークの国連本部で行われた気候行動サミットで「気候変動に取り組むには、すべてが楽しく、クールで、セクシーでなければいけない」とかっこよく発言しているうちは良かったのですが、「石炭は温暖化の大きな原因だが、脱石炭火力に向けて今後どうする？」と質問を受けて即座に「減らす」と答えるのが精一杯、更に「どのように？」と具体策を尋ねられると答えに詰まって黙り込んでしまいましたね。二世三世議員となると、多かれ少なかれあんなものなんです。行政は“大臣の意を忖度する”と称する中央官庁のお役人の力にすがるしかないんです。小泉純一郎元首相だって、「改革だ改革だ」と大騒ぎしていたけど実現できたのは郵政と道路公団の民営化だけ。「民営化によって何がどの程度改革されたのか」具体的に質問したら、ご子息の小泉進次郎くんと同様に口をつぐんでしまうに違いありません。

安倍元首相の果たしていた旧悪は？

しかし、自民党による調査の結果、旧統一教会と自民党議員のつながりが存外広く広がっていたということが分かりましたね。しかも、旧統一教会から献金を受けた“先生”方の中にも素直に「なぜ悪いのさ」という表情を見せていた向きが多かったようですね。それはそうでしょうよ、通常の「3バン」活動の一環に組み入れ、然るべく give & take の活動の関係を保ってきただけなんです。もともと、岸田自民党“総裁”殿としては、献金拠出をする側の旧悪を取り締まるよう“先生”方に指示することもされていなかったんじゃないでしょうか。旧悪をもつ献金者は旧統一教会だけじゃないと思いますよ。「自民党所属議員との関係を巡り国民の不信を招いた旧悪をもつすべての献金者との“関係を断つ”」ってことにしなければ真に「国民に深謝する」ということにはならないと思うのですが。それにしても、母親が入信後に破産するほどの献金をして家庭が崩壊したため旧統一教会に対して恨みを持っていたはずの犯人の銃口が、同教会幹部ではなくて何故安倍元首相に向けられたのか分からずにいたのですが、どうやら安倍家の旧統一教会との関係は安倍元首相のお爺ちゃまの岸信介元首相の時代から始まっていたようですね。そして昨今では、「選挙で誰が統一教会の支援を受けるかは、安倍さんの一存で決まる」といわれていたそうですよ。統一教会の組織票は約8万票だそうで、1選挙区あたりの統一教会系の得票数は大したことがないと思っていたのですが、全国比例区ではその組織票が威力を確実に発揮していたわけですね。落選しそうな

意中の候補について、安倍“総裁”から“彼を頼む”といった意向が統一教会に伝えられていたんだそうですよ。その意向の伝え方も相当に高圧的なものだったのでしょうか。こんな光景を見ていたから、安倍元首相狙撃犯は「母親が過度の献金をして破産したのも自民党からの強圧に唯々諾々と応じているからだ。悪いのは自民党で統一教会に対して高圧をかけていた安倍晋三だ。」と信じ込むようになったのだと思います。

“世事”にも疎い岸田首相の国民に対する期待

安倍元首相といえば、統一教会問題ばかりでなく、森友学園をめぐる公文書改竄や加計学園問題、「桜を見る会」問題などについても旧悪がありそうだとすることを指摘されてきましたね。しかし、「お坊ちゃま」で“政治”手腕ばかりでなく“世事”にも疎い安倍元首相だけに“世事”に強い参謀が付いていて、怪しいところは消して回っていたのでご本人には少しも反省するところがなかったのでしょうか。銃撃によって命を奪われてしまったのは悔むべきところですが、ひょんなところから統一教会の名前が出てきて、自分の怪しいところを消して回ることもできないまま、また、関連の自民党議員にも訳の分からないまま、「旧統一教会との“関係断つ”」という反省と「国民に深謝する」という姿勢を取られることになったのは亡きご本人にとっても耐え難いことだろうと思います。同じ「お坊ちゃま」で“世事”に疎い岸田首相は、安倍元首相の国葬実施の理由について「暴力には屈しない」などと“いっちょ前にかっこいい”ことを言っていますが、この銃撃事件は、政治的な異見者からの“政治的な暴力”によるものではなく、ごく“世事的な思い入れによる暴力行使”であったということをお忘れにはならないと思います。そんなわけで、岸田文雄首相も安倍さんの①首相在任期間が憲政史上最長となること、②内政・外交の実績、③国際社会からの評価などを国葬実施の正式理由に挙げたようですが、私たちの皆が「我々国民の一人一人は、生前に与えてくださった恩益に感謝しながら、国費を用いた国葬によって安倍元首相を偲ぶべきだ」と思うに違いないと思っておられるのでしょうか。

国葬はアメリカの属国化への一里塚

確かに「①首相在任期間が憲政史上最長となること」は紛れもない事実ですが、これは、安倍元首相が派閥の力学が渦巻く自民党の中で長く“総裁”を務めた結果“総裁”の座に長くいつづけただけの話です。自民党のためには大功績があったのかもしれませんが、国民の益となる「②内政・外交の実績」と「③国際社会からの評価」については“これぞ安倍晋三の残した遺産”と考えられる事項が何一つ見当たらないように思えます。アベノミクスなるインチキ経済学を掲げていながら何一つ有効な経済政策を打ってこなかったでしょ。また、安倍元首相の外国訪問件数が歴代の首相の中で断トツであったところから、「外交面での功績が国際的にも高く評価されている」とも誤解されていますが、最も熱心に行っていたのは、現地の外務省外交官や日本企業要因の努力で友好関係の出来上がっている諸国への表敬訪問だけだったではありませんか。ともに外国旅行がお好きな安倍晋三・昭恵カップルが政府専用機を乗り回して外国旅行を楽しんでいただけです。挙句の果てに、安倍さんがコロナ対策として10万円を給付したのを見て、政治家の先生方が一気に「財源を意識しなくて政策提言できるんだ」という意識を持ち始めてきたようですね。岸田文雄首相なんて、先の参院選が安倍元首相の“吊い合戦”のような効果を上げて、憲法改訂のために必要な議員数2/3以上の確保ができたのを機に、喜び勇んで「防衛力の5年以内の抜本的な強化の具体策」を打ち出していますね。防衛費をNATO(北大西洋条約機構)の加盟国並みにGDP(国内総生産の2%)に引き上げるのだそうですが、行政能力については「おバカさん」の岸田首相にとっては防衛費を賄うための国債の増発なんて目じゃないんでしょうね。一層の信用不安による円安化を招くことが必至なのに。また、「軍事費への財政投入は一切の付加価値も生産せず国家経済の圧迫要因にしかならない」という事実などまるで頓着していませんね。もともとアメリカの敵国が即ち日本の敵国になるっていう話はないんですよ。寧ろ、アメリカとその敵対国との間にも立ちこんで、喧嘩両成敗とばかりに立ち働くのが不戦憲法を掲げる日本の役どころだったんじゃないですか。日本国民に経済的な不利益を受けさせておいて、日本にとっては決して敵国ではないロシアや中国、北朝鮮からの攻撃に備えて防衛力を強化するなんて愚の骨頂です。岸田お坊ちゃま首相の旗振りのもと、安倍元首相の国葬強行に続いて、アメリカの属国化が急テンポに推進されていきそうな気配です。くわばらくわばら。